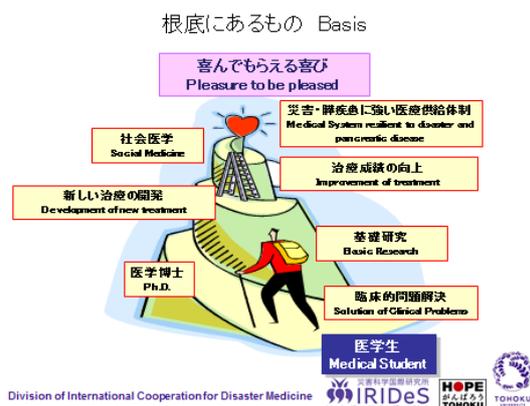


医工学研究科修士課程で終末期医療に関する講義を行いました(2013/7/10)

場所：東北大学工学部中央棟大講義室(仙台)
テーマ：「終末期医療」

7月10日(水)に東北大学工学部中央棟大講義室で、医工学研究科、江川新一教授が終末期医療に関する講義を行いました。終末期医療(ケア)は緩和医療(ケア)と異なり、患者の死が間近で避けられない時の死を迎えるまでの医療のことです。講義はアンサーパッドを用いた双方向性の形式にて行われ、また海外からの留学生もいるため日本語英語併記のスライドを用いて日本語で行われました。

約160名がアンサーパッドに回答し、年齢中央値22歳(17-81歳)、男:女:無回答=128:23:14という集団でした。あなたの考える生命とは何かという問いに対して、「死ぬ」と答えた者が最も多く、「自己を複製する」「魂がやどっている」「遺伝子を持っている」などが続きました。シュレジンガーが1944年に提唱した生命とはnegative entropyであるという考えを聞いたことがあるのは1人だけでした。一方、宇宙は生きているかという問いに対しては48%が「生きている」と回答しました。家族の死に立ち会ったことがあるのは28%でした。講義のなかで、転移を有する進行膵臓にかかった46歳の男性の患者と、その患者に診断・治療法を告げる医師、そして評価者の3人1組のロールプレイを行ないました。医師として病名・病状・余命まで告知できたとするものが51.6%であった一方、患者側からは医師が事実のみを説明し、同情や共感が示されなかったとするものが34.5%、詳しく説明し共感を示してくれたとするものが20.7%でした。評価者からみると約50%で良好な患者・医師関係が構築されていたと評価されました。生命とは何か、死ぬとはどういうことか、ロールプレイ、膵臓がん、双方向性授業などいずれもが面白かったとの評価を受け、医工学の修士諸君には面白い刺激となったようです。



仕事の根底にあるもの

Role play

シナリオ 父は46歳。中規模の企業の課長をしており、母は42歳。大学院1年生の息子と大学3年生の娘がいる。肝臓に転移を有する進行した膵臓であると診断された。The father is diagnosed as a metastasized pancreatic cancer with life expectancy of three months.

- ・ 3人で1チームをつくってください。 make a team of three
- ・ じゃんけんで役割を決めてください。 Define roles as:
 - 1人は 患者本人 the patient with family
 - 1人は 担当医 the doctor
 - 1人は 評価者 evaluator

担当医は家族の前で本人に病状とこれからの治療方針について説明してください
Doctor explains the diagnosis and future plan.
時間5分間 Role play for 5 min
担当医、患者本人、評価者の順に感想をのべてください。 Evaluate in order of Dr. Pt. Ev.

Division of International Cooperation for Disaster Medicine IRIDeS HOPE 東北大学 TOHOKU

ロールプレイの課題

文責：江川新一(災害医学研究部門)